



上空をカワウが盛んに飛び交い、藪の中からウグイス、開けた場所ではホオジロが囀っていました。あいにくの曇り空で、昆虫があまり姿を見せませんでした。季節は着実に進み、風下では、開き始めたシイの花のにおいが感じられました。林の縁ではハルジオンが満開を迎え、チガヤの白い穂から種が飛び始めていました。



セイヨウミヤコグサ(ヨーロッパ原産)
多年生なので駐車場の北に毎年見られます。マメ科植物で牧草として持ち込まれたようです



ビグノニア
東郷町のグランドの境のフェンスで咲いています。スパイシーな香りがするのでカレーバインとも呼ばれます。バインは蔓のことです。吸着根や巻きひげで絡みつきます。



ハルジオンと同じように道端でよく見かけるヒメジオン(左下)があります。ともに北アメリカ原産です。春、先に咲き出すのはハルジオンで、夏を過ぎても見られるのはヒメジオンです。



コロギス幼虫
サクラの葉を巻いた中(下)にいました。キリギリスのように緑色で触角が長く、体はコオロギのように見えます。樹上で生活し夜行性です。日中は葉を綴った中にいるので見つけにくい虫です。赤い複眼がく見えます印象的です。



シロオビアワフキ幼虫の巣

マツアワフキ幼虫の巣



アワフキが現れる季節になりました。泡は、植物



の汁から栄養分を吸収した残りの排泄物です。その中に体内で作られた石けんを混ぜて作っているそうです。



オオトビモンシャチホコ幼虫

コナラの枝先に固まっています。集団で暮らすことで敵の目をよけているのかな？小鳥はこれらの幼虫を餌に子育てに励みます。



ケブカキベリナガカスミカメ

体長 5~6 ミリ、蔵の小さなカメムシ。黒と黄色のツートンカラーがきれいです。光線のあたり方を変えると細かい毛が生えているのが見えてきます。



コムラサキ幼虫

国鳥オオムラサキより小さいですが同じ水辺に近い雑木林に住み、樹液に来る蝶です。幼虫の食草はヤナギです。



チビアメバチの蛹

矢印の先が繭です。葉の裏を見たらガの幼虫が死んでいました。アメバチの幼虫は宿主の中で育ち外へ出てこのような繭を吊り下げます。

植物 アカツメクサ、セイヨウミヤコグサ、ニガナ、チガヤ、アメリカフウロ、アヤメ、シラン、カスマグサ、ヤエムグラ、ヤブジラミ、タチカタバミ、キュウリグサ、ニワゼキショウ、ニホンタンポポ、セイヨウタンポポ、オオジシバリ、スイバ実、ハコベ、ハハコグサ、マツバウンラン、シラスゲ？、ハルジオン、オニタビラコ、ヒメハギ、シバ、ベニシダ新葉、(トウカイコモウセンゴケ花柄伸びる)、ニセアカシア、シイ、ボケ、アカマツ雌花、マメガキ雌花、ヤマハゼ蕾、ムラサキシキブ蕾、カレーバイン(ノウゼンカズラの一種)、ヤマモモ実、マルバヤナギ実、 **昆虫・クモ** キタキチョウ、ヒメウラナミジャノメ、イチモンジセセリ、コムラサキ幼虫、マイマイガ幼虫、クワゴマダラヒトリ幼虫、アカバカリガ幼虫、オオトビモンシャチホコ幼虫、その他ガ幼虫多数、ヤニサシガメ、ケブカキベリカスミカメ、クヌギカメムシ幼虫、ウスアカカスミカメ？、アブラムシの一種、マツアワフキ幼虫、シロオビアワフキ幼虫、ムネアカアワフキ成虫、トビイロツノゼミ、ナナホシテントウと蛹、コロギス幼虫、ナナフシ、ヒシバッター、キリギリス幼虫、ナミハナアブ、ユスリカの一種、キムネクマバチ、ハナバチの一種、チビアメバチの一種蛹(そばにガ幼虫死体)、トンボの一種、シラクシケアリ、シリアゲアリの一種、ウメマツオオアリ、ミカドオオアリ、ナナホシテントウと蛹、イクビチョッキリの一種、コイチャコガネ、バラルリツツハムシ、トビハムシの一種、アリ地獄、(クモ)ヤマシロオニグモ、アシナガグモ、アオオビハエトリ、コモリグモの一種、 **鳥・その他** スズメ、ツバメ、ウグイス声、ヒヨドリ声、ホオジロ声、カワラヒワ声、カワウ営巢中、カナヘビ、ウスカワマイマイ、

次回は6月13日(木)、午前9時30分～12時、水資源機構P前集合、参加費100円